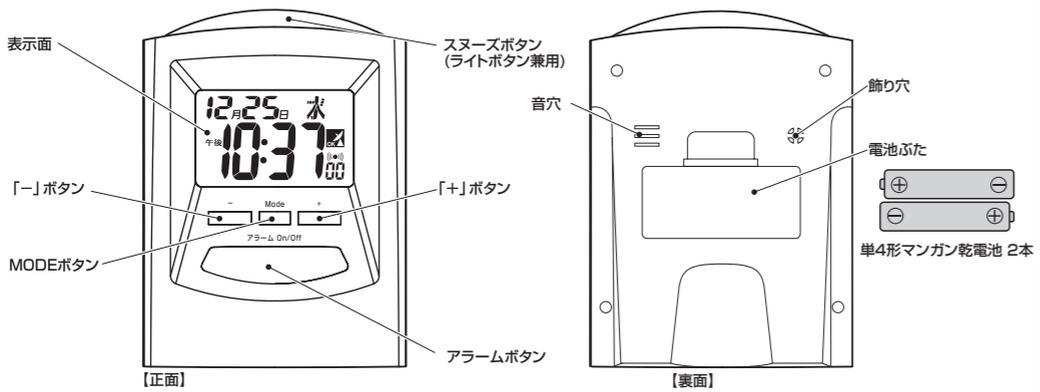




## 各部のなまえ



●図は操作説明用ですので、実際の商品とデザインなどが異なることがあります。

＜表示面詳細＞

「カレンダー」表示

「曜日」表示

電波受信マーク

アラームON/OFF ONのとき表示

スヌーズ状態のとき点滅

「午前」または「午後」表示

現在時刻表示 (12時間制) または「西暦」表示

※液晶表示板は下方から見ると(目の位置より上にする)薄くなって見えにくくなります。

＜アラーム設定時刻表示の例＞

「AL」表示になります。

## はじめてお使いになる場合(電池を交換するとき)

### 1 電池ふたを外します

電池ふたを左図のように外します。

※閉めるときは、先に凸部を差し込み、閉じてください。

### 2 電池を入れ電波を受信させます

商品の種類によっては、絶縁シートが付いていることがあります。その場合は、これを取り外してください。

電池を入れると大きな音がかかります。

①電池の⊕⊖を電池ホルダーの⊕⊖に合わせて電池を入れます。

警告

電池の⊕⊖を入れ間違えた場合、電池の漏液・発熱・破裂する原因となり、人的・物的損害が発生することがあります。

注意

次のような場合は、必ず電池を取り出してください。電池からの液漏れで時計の故障や家具などを汚す原因になります。

- 使い切った電池。
- 長期間時計を使用しない。

②「ビ・ビ・ビ」と確認音が鳴り、受信を開始し「電波受信マーク」が点滅します。

電波受信マーク点滅

電池を入れた直後は、時刻は2002年1月1日火曜日 午前12:00、アラームは午前12:00に設定されます。

③電池ふたを取りつめます。

④時計が電波を受信しやすい場所(窓際など)に設置してください。

⑤受信結果を確認します。受信に要する時間は最大約14分間です。

受信に成功した場合：電波受信マーク  点灯

受信に失敗した場合：電波受信マーク  表示しません

●すぐに、再受信を試みたい場合は、「+」「-」ボタンを同時に3秒以上押し続けます。(強制受信操作)

※アラームON状態で、「+」「-」ボタンを同時に押すときに、タイミングがずれると時刻が変わることがあります。

●受信に成功しない場合は、「電波を受信できない場合」をお読みください。

## アラームの使い方

### 「+」または「-」ボタンの使い方

「+」ボタンを1回押すと1つだけ進みます。押し続けると早送りが進みます。

「-」ボタンを1回押すと1つだけ戻ります。押し続けると早送りに戻ります。

### アラーム時刻をセットする

アラーム時刻表示

①「MODE」ボタンを1回押してアラーム時刻表示にします。秒表示が「AL」表示になります。

②「MODE」ボタンを「時」が点滅するまで約3秒間押し続けてください。

③「+」または「-」ボタンを押し「時」を設定し、「MODE」ボタンを1回押してください。「分」が点滅します。

④「+」または「-」ボタンを押し「分」を設定し、「MODE」ボタンを1回押してください。アラーム時刻の設定が完了します。

⑤「+」または「-」ボタンを押し「分」を設定し、「MODE」ボタンを1回押してください。アラーム時刻の設定が完了します。

※「午前」「午後」の表示に注意してください。

※点滅状態で約30秒間ボタン操作をしないと、表示された時刻にアラーム時刻が設定され、現在時刻の表示に戻ります。

### アラーム機能(設定した時刻にアラームを鳴らす)

アラームを鳴らしたい場合は、「ALARM」ボタンを押してください。「AL」マークは点灯し、セット時刻になるとアラーム音が鳴ります。(4段階音→約10秒→約10秒→約90秒)

### スヌーズ機能(繰り返しアラームを鳴らす)

アラームが鳴っているとき「SNOOZE」ボタンを押すとアラームは止まり、「AL」マークが点滅します。約5分間後にまた鳴り出します。この機能は繰り返し7回まで使用になります。

※鳴り止め操作をしない場合、アラームが鳴り始めてから約2分後に自動的に止まります。(アラームオートストップ機能)

※アラームが鳴っているときやスヌーズ状態のときは、強制受信することはできません。

### アラーム機能(アラームを鳴らさない、止める)

「ALARM」ボタンを押して「AL」マークを消灯させてください。アラームが鳴っているときに押すと、アラーム音は止まりますが、アラーム設定は解除されませんので、もう一度押してください。

※「AL」マーク点滅:スヌーズ中

※「AL」マーク消灯:アラームは鳴りません。

### アラーム時刻の確認方法

「MODE」ボタンを1回押すとアラーム時刻を表示します。そのまま放置した場合、約5秒後に現在時刻の表示に戻ります。直ぐに、現在時刻に戻りたい場合は、「MODE」を1回押して直ぐに離してください。

## 電波を受信できない場合

### 受信を失敗した場合

●電波を受信出来なかった場合、窓際などの受信しやすい所で再受信を試みてください。

また、一般に夜間になると電波を受信しやすくなりますのでそのままの状態にしてください。受信できる可能性が高くなります。

### 受信出来ない場合の手動による時刻の設定方法

●受信に成功している場合は、この操作はしないでください。

●電波を受信出来ない場合の時刻精度は、平均月差±30秒になります。

●手動で時刻合わせをしても、電波受信に成功すると自動的に時刻は修正されます。

現在時刻が表示されているときに、「MODE」ボタンを約3秒間押ししていると、手動設定モードになります。

### 1 「西暦(年)」の合わせ方

①「MODE」ボタンを約3秒押し続けてください。西暦(年)が点滅し、手動設定モードになります。

②「+」または「-」ボタンを押して「西暦(年)」を合わせます。

### 2 「月」の合わせ方

①西暦合せ後「MODE」ボタンを1回押ししてください。「月」が点滅します。

②「+」または「-」ボタンを押して「月」を合わせます。

### 3 「日」の合わせ方

①月合わせ後「MODE」ボタンを1回押ししてください。「日」が点滅します。

②「+」または「-」ボタンを押して「日」を合わせます。

### 4 「時」の合わせ方

①日合わせ後「MODE」ボタンを1回押ししてください。「時」が点滅します。

②「+」または「-」ボタンを押して「時」を合わせます。

### 5 「分」の合わせ方

①時合わせ後「MODE」ボタンを1回押ししてください。「分」が点滅します。

②「+」または「-」ボタンを押して「分」を合わせます。

※「+」「-」ボタンを押すたびに、秒が「00」に設定されます。

### 6 通常表示に戻します

西暦、カレンダー、現在時刻合わせが完了したら、「MODE」ボタンを1回押ししてください。手動設定モードが解除されます。

※曜日は自動設定されます。

※手動設定モード状態で、約30秒ボタン操作しない場合、手動設定モードは自動的に解除されます。(通常モードに戻ります)

※手動設定モード状態で「+」「-」ボタンを同時に3秒間以上押ししても強制受信は作動しません。

## 手動で電波を再受信させるには

「+」と「-」ボタンを同時に押して、電波受信マークが点滅するまで約3秒間押し続けます。

## 静電気による誤作動について

静電気により、内蔵されているマイコンが誤作動し、時刻違いなどが発生することがあります。この場合は、電池を2本とも取り出し、その後電池を入れ直してください。「はじめてお使いになる場合」に従って操作してください。

## 表示面の照明について

スヌーズボタンはライトボタンも兼ねています。ボタンを押すと約4秒間表示部を照明します。

ライトの効果は暗いところで確認ください。

※暗いところで、ライトを使用した場合、表示面下方より見ると表示が見えにくくなります。

## こんなときには

Q  マークが消えた。

A 標準電波を受信した後、24時間以上受信に成功しなかったことを意味します。もう1度受信すると復帰します。マークが消えてもクォーツ精度で時計は動いています。

Q 受信できても、テレビやラジオなどの時報サービスと一致しない。

A まれに誤受信や時計の修正タイミングにより一致しないことがあります。

対策1. 受信処理などで、±1秒程度の誤差を生じることがあります。これ以上の誤差が生じたときには、強制受信操作(「+」と「-」ボタンを3秒間同時に同時に押す)を行ってください。

対策2. 電池が消耗すると、遅れ進みの原因になります。新しい電池と交換してください。

Q 目覚まし時刻が設定された時刻に鳴らない。

A 目覚まし時刻または現在時刻の午前と午後が逆になっていませんか? この時計は12時間制ですから、午前と午後が逆になっている場合は再セットしてください。

Q 電波を受信できていなくても、目覚ましは鳴るのか?

A 電波を受信できていなくても、クォーツ精度で時計は動いているので、セットされた時刻に鳴ります。

Q 今まで受信できていたのに、急に受信できなくなった。

A 標準電波を送信している設備の定期点検や落雷などの影響で停波(送信停止)することがあります。停波に関する情報は「通信総合研究所」のホームページに掲載されています。

ホームページアドレス <http://jjy.crl.go.jp>

## 製品仕様

時間精度	●標準電波の受信に成功している場合 表示精度: ±1秒
使用温度範囲	-10~+50℃(0~+40℃ 液晶表示可視範囲)
使用電池	1.5V 単4形マンガン乾電池 (JIS規格 R03) 2本
電池寿命	約1年間
機能	●時計機能 : 12時間制(「午前」「午後」を表示) ●カレンダー機能 : 西暦(2000~2099年)、月、日、曜日 ●目覚まし機能 : 12時間制(「午前」「午後」を表示) ●目覚まし繰り返し時間 : 約2分間(4段階音) ●スヌーズ機能 : スヌーズ間隔 約5分間(7回まで) ●自動電波受信 : 1日4回(夜間最大14分間 4回の自動受信で1回でも成功すればその時から24時間電波受信マークは点灯します)

●時計に付いている電池は、工場出荷時に入れていますので、電池寿命が製品仕様より短い場合があります。

※0℃~+40℃の範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなる場合がありますが、時計精度には影響ありません。

※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなる場合があります。

※製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。